

黒石市まちなかエリアリノベーションプラン策定等
業務委託に係る公募型プロポーザルの結果及び講評

令和3年8月24日
公募型プロポーザル選考委員会

黒石市まちなかエリアリノベーションプラン策定等業務委託に係る公募型プロポーザルにおいて、説明書等に基づき厳正かつ公正に審査した結果、最優秀者及び優秀者を特定したので、次のとおり講評する。

令和3年8月24日

公募型プロポーザル選考委員会

委員長 北原 啓司
委員 土井 良浩
委員 村上 早紀子
委員 工藤 真紀子
委員 有馬 喜代史
委員 真土 亨
委員 鳴海 真一
委員 樋口 秀仁

第1 審査の経過

黒石市まちなかエリアリノベーションプラン策定等業務委託に係る受注者を選定・特定するため、令和3年5月18日に公募型プロポーザル選考委員会を組織し、説明書や仕様書等について協議・決定し、受注者を日本全国から募ることとした。

同年5月31日に公募型プロポーザルの実施に係る告示をし、同年6月18日までに5者から参加表明があった。参加表明者を審査した結果、すべての者が参加条件を満たしていたため、同年6月22日に技術提案書の提出を要請した。

技術提案書は、同年8月6日までにすべての者から提出があり、同年8月11日に選考委員会を開催し、上位2者を二次審査進出者として選定した。

同年8月22日に黒石市スポーツ交流センターでの二次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）を一般公開により行い、終了後直ちに選考委員が協議し、最優秀者及び優秀者を特定した。二次審査は、市民等36名が観覧した。

（参考：技術提案における評価テーマ）

評価テーマ	
1	まちなかエリアリノベーションプランの建築設計への反映のプロセス

	<ul style="list-style-type: none"> ・計画分野と設計分野の連携体制と業務の進め方について ・市民や関係団体の意見の聴取・反映の手法について ・エリアリノベーションの進行計画等について 	ほか
II	複合機能によるエリアの価値の向上	
	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアリノベーションのエリア内における行政機能（新庁舎及び産業会館を含む）、子育て支援機能及び市民交流機能の関連性について ・エリアリノベーションのエリア内の建物や広場等の配置計画について（エリアの将来的な本庁舎建替後のイメージを含む） <p>※先述の業務対象区域図の土地以外の利用（借地活用や敷地再編など）を提案する場合は、明記すること。</p>	ほか
III	歴史的資源をいかした回遊性の向上	
	<ul style="list-style-type: none"> ・こみせやかぐじなど歴史的・文化的資源との調和と復元促進について ・降雪時も回遊できるエリアの形成について 	ほか
IV	(仮称) 市民サービス施設の設計及び整備方針	
	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称) 市民サービス施設の設計及び整備方針と景観への配慮について ・ユニバーサルデザインやバリアフリー、環境への配慮について ・維持管理費の抑制や本市の積雪、凍結にも耐久性を発揮する設計の考え方について 	ほか
V	持続可能な都市の実現	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の自然条件を考慮し、市民をはじめ来街者も利用しやすく、親しまれるエリアの利用や形成について ・中心市街地の都市機能を維持するための取組や考え方について 	ほか

第2 選定・特定結果の概要

1 一次審査

業務実施方針及び評価テーマに対する技術提案について、60点/委員×8委員の計480点満点により評価し、点数が拮抗した上位2者を二次審査進出者として選定した。

整理番号	A	B	C	D	E
得点	338	270	273	275	310

2 二次審査

最優秀者 整理番号A 梓・都市環境研・蟻塚設計共同企業体

優秀者 整理番号E R I A・R F A・稲見建築設計事務所設計共同企業体

3 特定理由

本プロポーザルでは、市立図書館から黒石市中町重要伝統的建造物群保存地区までのエリアにおいて、旧大黒デパート跡地や現本庁舎敷地の一体的なリノベーションによりどのように人の流れを生むかということが大きな課題であった。

これに対し、最優秀者は、外部空間を介して施設内外を一体的に利用する点、市民ワークショップを通じて市民意見を計画に反映するのみならず、人材育成やまち育てを推進するという点、回遊性の高いまちなかの実現に向けて楽しく歩けるこみせを設けるなど、実現性のある提案が多く、それらが高く評価された。

また、最優秀者は、プレゼンテーション時のヒアリングを含め、各人の役割が明確化され、業務実施チームの体制が確立されていたことや、既存の施設や公共交通との関連性や温泉郷まで視野を広げたまちづくりの推進など、随所において具体的かつ現実的な提案が多く、市民団体や関係部署との連携等についても期待されるものである。

このほか、補助事業の活用や維持管理面において、市の財政負担の軽減に配慮した提案となっており、まちなかエリアのリノベーションの実現に向けて、市と協議し、よりよい設計としてまとめられることを期待したい。